

クロノメトリ・フェルディナント・ベルトゥー
ジェネラル・マネージャーのヴァンソン・ラペールさん

超こだわりの複雑時計がまた誕生!

並外れた精度のマリン・クロノメーターをつくりあげた
18世紀の偉大な時計師の名が復活。その歴史と現代の最先端技術を
融合した複雑時計は、希少で斬新の極みだ。



ヴァンソン・ラペール

1964年、スイスのチューリッヒに生まれ、1990年から時計業界でキャリアをスタート。時計開発の分野で実績を積み、ショパールではL.U.C.にも一時携わる。2011年より現職。

18世紀から19世紀にかけてパリで活躍した時計師の二大巨匠といえば、ブレゲの創業者アラマン・ルイ・ブレゲと、フランス王国マリン・クロノメーター製作者として有名なフェルディナント・ベルトゥーだろう。ベルトゥーと20歳年下のブレゲはともにスイス出身。パリに工房を構え、時計の歴史に不滅の業績を残した。そのフェルディナント・ベルトゥーの名をショパールのカール・フリードリッヒ・ショイフレ共同社長が復活させる。そして彼からこのブランドのジェネラル・マネージャーに任命されたのが、ヴァンソン・ラペールさん。時計業界で約30年のキャリアを持ち、著名ブランドのCEOを務めたこともある人物だ。

「彼には自分自身の描くベルトゥー像というのがあって、とくにデザイナーへのこだわりが徹底していますが、一面的ではなく、お互いにこういうところはこうできないだろうかといった提案をします。時計を愛する同じ仲間として情熱をシェアする関係といえますね」

ラペールさん自身は、ブランドを広く知られるように努めるのが目下の使命という。今年はジュネーブのSIHHとバーゼルワールドで新作を披露し、先日はブレゼンテーションのために来日もした。

「現在吊り下げ式で特許申請中のトゥールビヨンやチェーンフュージ、パワーリザーブ機構などを搭載する独自の複雑ムーブメントを軸にモデルを展開していますが、極めつけはこのモデルでしょう」

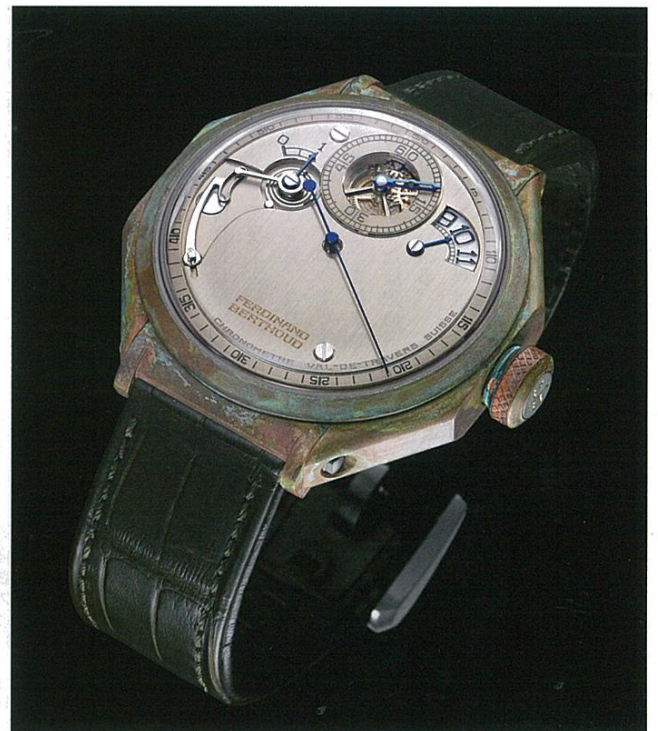
それは、ブロンズ・ケースを採用する異形の「クロノメーターFB1

声がかげられたときは驚いて困惑しましたが、人生最大のチャレンジだと思い、前向きに受け止めました」

2015年に「クロノメトリ・フェルディナント・ベルトゥー」の名で最初のモデルを発表したこのブランドが創作するのは、かつてのマリン・クロノメーターを21世紀の腕時計に翻案する超高級複雑時計だ。

「バーゼルワールドで、あるフランス人ジャーナリストが私にこう言いました。今日の基準からは外れていてクレイジーだが、ベルトゥーのエスプリをこれほど巧みに表現したものはないと。最高の誉め言葉でしたね」

ショパールとは完全に別会社とはいえ、その開発にはショイフレ氏が100%関与している。



R-Édition 1785」だ。

「この時計はルイ16世がフランス海軍に命じた世界一周の探検航海の物語に由来します。船にベルトゥー作の5台のマリン・クロノメーターが搭載されていましたが、残念ながら太平洋で遭難し行方不明になりました。2005年に海中から六分儀が発見され、それを変色したブロンズで再現したのがこのモデルです」

しかも、続きを聞いてびっくり。単なる緑青をふいたブロンズ・ケースではなく、試行錯誤しながら数十個を作り、理想的なパティナの色合いに達した5個のみをケースに使うというから、発想も加工も確かにクレイジー。しかし、普通ではやらないことに挑むからこそ、希少性に価値を求めるマニアにはたまらなく魅力的なのには違いないと納得した。



ブロンズ・ケースの古色を帯びるパティナの参考に用いられたのが、遭難現場付近の海中から発見されたこの錆びたブロンズの六分儀。



クロノメーターFB 1R-Édition 1785

当時の遭難にちなみ、緑青のブロンズ・ケースを纏う5本限定モデル。センターに秒針、12時位置に分、2時位置に時間の各表示。10時位置にはパワーリザーブ表示もある。手巻きトゥールビヨン。直径44mm。税別予価3075万円。発売時期未定。